



# 多職種連携推進課程カリキュラム

## 1 本課程の位置付け

保健・医療・福祉の分野で高度化・専門化・細分化が進む中、ケアを必要とする「ひと」を全人的な対象としてとらえ、保健・医療・福祉の総合的なサービスを提供することが求められており、領域を超えて専門職が互いに理解し、尊敬しあい、連携・協働する「多職種連携」が必要不可欠となっています。

本課程は、対人援助者として必要な基本的知識の習得とともに、職種間の「連携・協働」を推進するためのスキルを深め、最新の政策動向を踏まえた実践力を養うことをめざすものです。

## 2 本課程の特徴

### (1) 多彩で充実した講師陣

本課程は、ケアが必要な「ひと」を全人的な対象としてとらえ、「ヒューマンサービス」の実現をめざす、神奈川県立保健福祉大学の理念に基づく、当センター独自の課程です。

本課程のカリキュラムは、中村学長をはじめ、本学の教員や地域の実践家など、多彩な講師陣による充実した内容となっています。

### (2) 実践的な授業展開

座学による講義に加え、演習やグループワークを多く取り入れ、現場での実践に結びつく力を身に付けられるように工夫しています。

相談援助や専門職連携の技術について、基本を学べる科目も設定しています。さらに、専門分野の科目においては、実際に多職種による本格的な演習・グループワークを体験できることから、これまでの課程修了者から高い評価を得ています。

### (3) 働きながら学びやすい設定

原則土曜日に開講します（一部、平日開講となる場合があります）。

また、科目修了認定のための学科試験はありません。学びのまとめのために小論文を提出する科目がありますが、修了認定は出席日数を基本としています。

### (4) 多職種・多分野の交流

看護師、社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、精神保健福祉士、理学療法士、栄養士、相談員、行政職など様々な職種・職場の方々と一緒に学びながら交流できます。本音で話せる様々な職種の仲間を得られると好評です。

### 3 授業時間と修了要件

#### (1) 授業時間数

必修・選択の別	※必修科目 (計 100 時間)		※※選択科目 (計 72 時間)
分野	基礎分野	専門分野	
設定時間数	28 時間	24 時間×3 科目 (A・B・C)	24 時間×3 科目 (D・E・F)
卒業要件との関係	受講必須		D・E・F から選択が可能

#### (2) 科目区分

※ 必修科目：卒業するために必ず履修しなければならない科目です。

※※ 選択科目：複数科目の中から選択して履修できます。

#### (3) 修了要件

- ・卒業には、必修科目計 100 時間全ての履修が必要です。
- ・各科目の修了には、3分の2以上の授業の出席が必要です。

#### 4 カリキュラムの概要

##### 【教育目的】

保健・医療・福祉サービスを必要とする地域の生活者が、その人らしい生活を営むことができるように、専門職の連携と協働を推進できる人材を育成する。

##### 【教育目標】

- 1 対象者が地域で生活することの意義を常に意識し、そのことを自らの専門職活動に活かすことができる。
- 2 生活者としての対象者を支援する様々な職種との連携と協働を実践できる。
- 3 保健・医療・福祉職が多様な価値観を認め、互いに尊敬し合い、柔軟な思考力・判断力を持って連携と協働を推進できる。
- 4 多職種連携の実践力を身につけ、保健・医療・福祉サービスを提供する様々な場で活かすことができる。

##### 【教育内容】

(多少変更することがあります)

分野	科目名	時間	内容	ねらい
基礎 (※必修)	多職種で支える ヒューマンサービス	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒューマンサービスの理念</li> <li>・人間の理解(エンバワメントの理解)</li> <li>・人間の理解(人間関係論)</li> <li>・専門職連携(IPW・IPE)の基本</li> <li>・保健・医療・福祉施策の動向と多職種連携(基本)</li> <li>・専門職に必要な安全管理の基本</li> <li>・災害時および感染拡大時における多職種連携</li> </ul>	保健・医療・福祉サービスを提供する専門職として、人権と生命を尊重した関わりについて自らの姿勢やその在りようを振り返る。専門職連携の必要性と現状・課題、また多職種連携に関連し、相互理解促進のための基礎知識を学ぶ。 安全管理および災害や感染拡大状況の基本的知識に関連した多職種の連携について学ぶ。

基礎科目 小計(28時間)

分野	科目名	時間	内容	ねらい
専門（※必修）	A 個別支援・ チームアプローチ	24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談援助の基本(面接の姿勢と技法/個人情報保護と様々な記録)</li> <li>・コミュニケーションと合意形成</li> <li>・連携と協働のファシリテーションスキル</li> <li>・効果的なカンファレンス</li> <li>・チームアプローチの基本と実際(リーダーシップ・メンバーシップを含む)</li> <li>・多職種によるチームアプローチ</li> </ul>	<p>個別支援の基本として、相談者の立場に立った相談支援を行うためにコミュニケーションやファシリテーションに係る知識・技術を習得する。</p> <p>さらにチームアプローチの原理原則(チームビルディング・メンバーシップ・リーダーシップ等)とその客観的効果を学び、実際が多職種による専門職連携の学びへつなげる。</p>
	B 専門職連携の技術	24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健・医療・福祉施策の動向と多職種連携(専門)</li> <li>・ケアマネジメントの基本</li> <li>・ケアマネジメントの技術</li> <li>・ケアマネジメントと多職種連携</li> </ul>	<p>多職種連携に関連する保健・医療・福祉の動向を学ぶ。多機関・多職種による連携・協働を具体的に展開する上で求められる知識と技術について習得する。制度の動向を踏まえつつ、職種横断的な連携を推進するためのケアマネジメントの基本的かつ具体的な知識と技術について、講義と演習を通して理解を深め、現場での実践に結びつく力を身につける。</p>
	C 事例検討	24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討の意義と役割</li> <li>・事例検討</li> </ul>	<p>事例検討の意義と役割について確認し、各自の事例検討を通して、自己を振り返る。また、多職種との連携や協働についても振り返り、考察を深め実践力を高める。</p>
専門（※選択）	D 子どもや家族および障がいのある人と多職種連携の実際	24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや家族および障がいのある人の地域包括ケアシステムの仕組みと動向</li> <li>・地域包括ケアの取組</li> <li>・児童福祉分野の地域包括ケア</li> <li>・障がい福祉分野の地域包括ケア</li> <li>・子どもを育てる家庭の地域包括ケア</li> </ul>	<p>子どもや家族および障がいのある人が日常生活を営む上で必要な支援について学ぶ。専門職等の連携・協働による地域包括ケアとしての具体的な支援を学び、実践力を高める。更に演習を通し多職種による社会資源の活用や創出を体感して、地域包括ケアの充実を図る力を身につける。</p>
	E 超高齢化社会における多職種連携と地域アセスメント	24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者と家族のための地域包括ケアシステムの仕組みと動向</li> <li>・多職種による地域ケア会議</li> <li>・多職種による地域アセスメント</li> <li>・高齢者を軸とした地域づくりのネットワーク構築とコーディネートスキル</li> </ul>	<p>高齢者及び家族が日常生活を営む上で必要な支援について、専門職等の連携・協働による具体的な支援展開について学び、実践力を高める。更に演習を通して地域アセスメントについて学び、多職種による地域づくりの方法を習得する。</p>
	F 疾病と健康回復に関連した多職種連携	24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疾病とともにある人と家族のための地域包括ケアシステムの仕組みと動向</li> <li>・入退院支援</li> <li>・在宅療養支援(訪問看護ステーションの取組み)</li> <li>・精神疾患や慢性疾患がある人を地域で支えるための知識と技術</li> </ul>	<p>様々な疾病とともにある人と、その家族に必要な支援について、専門職等の連携・協働による具体的な支援展開について学び、実践力を高める。保健・医療・福祉分野における様々なサービスや支援等における「健康回復」の視点に着目し、多職種連携・協働によるシームレスな取組みについて学ぶ。</p>

専門科目 小計(144時間)

課程の設定時間数 合計(172時間)